

平成27年度 第3回 大阪府立布施高等学校 学校協議会

日時：平成28年2月5日（金）15:00～17:00

場所：布施高校 校長室

次 第

全体の司会・進行…教頭

<15:00～15:20>

1. 挨拶

【校長】

センター試験 153 名受験で増えてきている。

PTA の新年会での話題で、受験料だけですでに 40 万円払って焦っている。保護者にも浮足立たないような指導が必要である。

2. 会長挨拶

【会長】

大学受験は景気の動向と連動している。景気の良い時は、2 日連続で受験する生徒が多いが、悪いと 1 日だけの受験が増える。

近畿大学付属高校の受験を来年度変更する。今までは、11 月に面接だけで可否を決定していたが、加えてセンター試験を受けさせる。遊ばせず、まんべんなく勉強させたい。センター試験の結果が悪い時は合格させない。専願と併願があり、併願では、国公立大学を受験してよい。高大連携の一貫した人材育成を大学でも考える。

<15:20～15:40>

3. 学校改革進捗状況（報告）

【校長】

学校教育自己診断の結果と分析

「学力のつく授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒の肯定的回答が、昨年 56%から 66.5%に増えた。

「学校は悩みや相談に親身になった応じてくれる」の項目は、昨年までは「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」との質問であったため、生徒 51%、教員 87%であったが、今年は生徒 63%、教員 73%と距離が近づいてきた。

「ICT 機器が各教科で活用されている」は、生徒 45%、教員 62%とかい離している。

本年度の取組内容及び自己評価

確かな学力の育成の(2)自学自習、授業以外の学習時間確保は 1 年生 47 分、3 年生 101 分(予備校・塾を含まず)で○。(3)進路保障、専門コースの内容充実は、アドバンストコース中心に国公立 14 名、難関私立 64 名の目標達成は、結果待ちである。

健全な心身の育成の遅刻指導は、即日保護者連絡の効果ありで、前年比 45%減で◎

1 年生の部活動加入率 84%(目標 83%以上)◎であるが、2 年生では 76%に減っている原因を追求する必要がある。

夢・志のはぐくみでは、オーストラリア短期語学研修、訪日中国・台湾の高校生交流実施○、菜の花忌運動(1/30・31 設置)を通じて、地域交流や地域の美化意識の向上を図っている○、保護者の授業参観 70 名以上参加◎、学校説明会 6 月 8 月 11 月で計 1050 名参加◎

機能的な組織運営では、ペーパーレス職員会議で校長説明はすべてパワーポイントで行う○、若手教員を積極登用で 20 代後半の学年主任○、校長と事務長の校内見回りで、不安全事故ゼロ○。

「国際理解教育」は、留学生の受け入れも大事だが、授業の中で取り組む必要もある。

<15:40~16:00>

4. 取組みの進捗状況（報告）

（1）進路指導（H27年度進路状況報告）

【大江進路指導部長】

大学入試センター試験自己採点会は、4限に実施したので出席率高い。

国語が易しく満点があった。全国平均上回る。日本史 B・政治経済・生物基礎・地学基礎・生物が全国平均上回った。69期は健闘した。5教科の上位者は73.2%、3教科の上位者は82%の得点率であった。国公立、関関同立の受験者は増えている。

69期 就職・進学状況(1月末現在) 就職希望者8名(学校紹介内定3名・公務員1名・公務員の専門学校へ2名・進路変更1名・受験準備中1名)

大学進学希望者286名中、指定校推薦・AO・公募推薦で141名、短大19名、専門学校(看護医療系を含む)28名合格。

一般入試で最後まで頑張る生徒が増えている。

（2）生徒指導（遅刻指導、服装・頭髪指導について）

【石田生徒指導部長】

平成26年度遅刻総数4473回、平成27年度1月までで2317回で45%減。昨年は3年生だけで2559回。来年度2000を切る目標。遅刻が減ったのは、小テストの効果もある。3年生の遅刻をいかに減らすか検討する必要がある。

（3）学力向上係（今後の取組み等）

【竹友係長】

今年度8月に3日間実施した8時間耐久勉強会について。申込3学年で66名。内参加者、1日目52名、2日目47名、3日目41名。9時開始と17時終了の完走率は、1日目77%、2日目83%、3日目76%であった。参加者の事前事後の模試の偏差値は少し上がった。来年度は、50時間勉強マラソンを検討予定。

<16:00~16:40>

5. 学校改善に向けて（協議）

【進行：会長】

- 8時間耐久勉強会の参加者のモチベーションを上げるため効果、成果、評価が重要
- 参加者の学習時間の追跡をする必要あり。センター試験受験者は、増えてきているが今までが少なすぎた。目標は200名。
- 8時間耐久ラインはできる。勉強は魅力付が必要。「がんばれ」だけでなくやる気アップの方法を考える。達成感だけでも大きい。
部活動で2年生をやめている生徒が多い。近大のゼミでも高校1年で部活をやめた学生多い。大学ではサークルでやる学生多い。打ち込むものがあれば学力にもつながる。逃げの姿勢を作らない。センター試験も受験する魅力をアピールし受験者を増やす。
- 3年生になると受験科目に関係ない科目は勉強しなくなる。力があるのに低く自分を見積もっている。
- 自分でボーダーを決めてはダメ。そこそこの中学・高校・大学・会社。そこそこの人生を送ろうとしている学生が多い。尻たたきでも一定の効果はあるが、何かに目覚めさせてあげたい。
- センター試験利用のメリットを伝えてあげる。センター試験=国公立のイメージを取ってあげる。国公立大も近畿圏では7割以上必要だが、地方では55%で合格できる。
- 近大の一般入試は7倍だが、センター利用は1.9倍である。生徒、保護者に情報を伝えてあげる。
- 入試のお得情報を伝えている。保護者向けのパンフレットを3者懇談で配布しているが、なかみを読んでもらっているかが疑問である。
- 附属高校では保護者に話しているが、母親より父親が昔の近大のイメージがありわかっていない。
近大では、パソコンで出欠管理をし、親がリアルタイムで出欠状況を見られる。半期15回で指導するため、退学率も減っている。
- 西大和では、保護者が模試の結果を見られる。寝屋川高校では、スマホで小テストや課題を提供している。ICTを道具としてとらえ、教育システムを見直す。8時間耐久勉強会も生徒が望むシステムを考えてあげる。

- 家庭でルールを決めても、勉強に使うからといってスマホを自分の部屋に持って行く。
- 世の中のシステムがコントロールできない。ライン以上の魅力を示さないとモチベーションは上がらない。ICTの研修では、道具の使い方ではなく、どのように活用すべきかを研修する必要有り。他校の見学も積極的に行う。
センター試験が変わる対応もやっていく必要あり。詰め込み教育ではだめである。考える力、想像力を社会が求め始めている。
布施高生は、何かを企画するポテンシャルが強い。行事で終わらず他に生かしていく。
- 理科系が弱い。高校で新しく学ぶ学問に弱い。
- 化学は歴史を柱に教えると良い。熱は紀元前だが、温度は17世紀以降である。教師によって教え方が違う。たとえば、円と直線の交点では、判別式派と点と直線の距離派にわかれる。物理が一番楽が出来るが、近大は文系が多い。理系は学生指導に手間がかかるのでコストパフォーマンスが悪い。文系学部を増やした方が儲かる。文系では、教授1人に対して学生30人だが、理系は1人に13人である。図形の証明など、論理的思考を養っているのに、おもしろさが伝わらない。
入学時に決意を証拠として残すため目標をかかせる。無理な場合は目標を修正させる。3年生が、1年生の授業をして教える方法もある。
卒業生の声、1年前の自分に言いたいことを書かせて、後輩に伝える。

<16:40~16:50>

6. その他

- 事務連絡

【教頭・事務部長】

※ 平成28年度学校協議会につきましては、3回予定（5月下旬・11月上旬・2月上旬）に予定しています。郵送にてご連絡いたします。